学校教育目標 ：「自律」・「尊重」・「挑戦」を大切にした学びがある学校 ～個人と社会の Well-being を目指して～

小城市立岩松小学校
学校だより 第 26 号

岩松小だより

令和７年１０月２４日発行
発行者　校長 真子靖弘

笑顔溢れる大運動会

過ごしやすい薄曇りの空のもと、10/19（日）、大運動会を開催いたしました。 当日は、多くの保護者の皆様、そして地域の皆様にご来場いただき、子どもたちに温かいご声援を送ってくださり、心より感謝申し上げます。

さて、今年度の運動会は、**「岩松魂を燃やし、全力前進で最高の思い出を！」**をスローガンに掲げ、企画段階から児童の参画度合いを高めてまいりました。子どもたちは、その期待に応え、準備段階から本番に至るまで、まさに「自分事」として主体的に考え、行動する姿を随所で見せてくれました。本番中、私たちの心を温かくした場面は数えきれません。

- 下学年の徒競走では、赤組・白組の応援団が敵味方の垣根を越えて一緒に走る仲間をたたえ、場を盛り上げていました。
- 6年生の親子競技の際には、3年生を中心とした下級生たちが屯所前から踊りながら大きな応援コールをおくっていました。
- 競技中に転んでヒザを擦りむいてしまった１年生を、6 年生がさっと抱きかかえ、優しく声をかけながら救護所まで連れて来る頼もしい姿も見られました。

これらはほんの一例ですが、子どもたちの確かな成長と、上学年としての自覚、そして仲間を思いやる優しさが感じられる瞬間でした。

また、**実行委員会が企画した種目「かりびと競争」**では、多くの子どもたちや保護者の皆様が自然に巻き込まれ、学年や立場を超えて協力し合う姿が印象的でした。会場にはたくさんの笑顔があふれ、まさに今年度のテーマを象徴する光景だったと感じました。

このような素晴らしい運動会となりましたのも、ひとえに、子どもたち自身の頑張り、そしてそれを見守り、支えてくださった保護者・地域の皆様のご協力のおかげです。この経験を糧に、子どもたちはさらに大きく成長してくれるものと信じております。

ありがとうが溢れた１日！たかのてるこ講演会

10/14（火）、作家の**たかのてるこ**さんをお招きし、**「毎日、ありがとう祭り」**という演題で講演会を開催しました。

7 大陸 75 カ国を旅したてるこさんの体験から語られる言葉は、子どもたちだけでなく、ご参加くださった保護者・地域の皆様 23 名の心にも深く響き、多くの気づきを与えてくれました。

てるこさんのご意向で、講演会は発達段階に合わせた上学年（4～6 年）と下学年（1～3 年）の **2 回**に分けて実施。すべての子どもが自分事として深く考える貴重な機会となりました。

今回の講演会は、自ら希望した**子どもたちによる実行委員会**が準備から当日運営まで担当。運動会準備と重なる中でも、意欲的なメンバー（上学年 9 名、下学年 7 名）が学年を超えて主体的に活動してくれました。子どもたちが中心となって作り上げたからこそ、参加者全員にとって、より記憶に残る特別な講演会となりました。

「生活のきまり（校則）」はどうあるべきか

先日の**育友会評議員会**で、**細かすぎる「生活のきまり」**が、子どもたちから「自分で考える機会」を奪っていないか、というお話をしました。

変化の激しい現代（VUCA 時代）だからこそ、学校は子どもたちが「間違ってもいいから、主体的に判断する」経験を、安全な環境の中で意図的に積ませる場であるべきだと考えています。

子どもたちが生涯にわたって幸せに生きていくために本当に必要な力は、「何が正しいかを自分の頭で考える力」、そして「その考えに基づき、判断し行動に移すことができる力」に尽きると確信しています。

今後は、保護者の皆様や子どもたちの意見も伺いながら、「生活のきまり」の見直しを進めてまいります。子どもたちが自ら考え、臨機応変に行動できる人へと成長できる環境づくりにご協力をお願いします。